



## 協力隊経験を市政に活かし 「普通の人たち」に寄り添う市民派議員

会津 素子さん 成田市議会議員

Motoko Aizu

活動の源は、子育て中のお母さんや近所のおじいちゃんとの世間話。

「地域を良くしたい」「政治をもっと身近で楽しいものにしたい」

そんな願いを胸に、市民の小さな想いを汲み取りながら、街づくりに奮闘する。

### 行政に届きにくい小さな要望こそ 公の会議録に残すことが大切

千葉県成田市で市議会議員を務める会津さん。3期目の現在も、大企業など声の大きい人の意見よりも、普通に暮らす市民一人ひとりの声を議会に届けるために奮闘している。「成田駅を利用する高校がいくつもあるのに、駅周辺に学習スペースがなくて困っている、という声がありました。これを議会ではり上げ、駅のそばにある生涯学習会館の空きスペースを自習室として利用できることになったんです。こうした市民の小さな要望を議会に伝え、公の会議録に残すことが大切だと思っています」

国際空港を抱える人口約13万2,000人の街には、観光や空港関連の企業も多い。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響でホテルは大打撃を受け、市の財政も厳しい状況だ。偏った業種や企業に依存する経済がいかに危険かを、痛いほど学んだ。「できるだけ地元産業で経済を回せるようにしなければ



なりません。また、投票してくれた人のためだけでなく、次世代の子どもたちが幸せに暮らすためにはどうすべきか、常に考えています」

### 「役に立てる人間になりたい」 利他の心が芽生える

高校卒業後は役者として活動していたが、人生を見つめ直そうと一人でインドへ。そこでマザー・テレサの「死を待つ人の家」※でボランティアを経験し、人生観が変わった。「貧しいけれど人々は生き生きと生きて、かわいそうに見えませんでした。日本とは全く違う世界がある。もっと色々な世界を知って、誰かの

※ マザー・テレサが設立した、貧困や病気で余命短い人たちの最後を看取るための施設。



市民の小さな想いを汲み取り、市議会に届けるのが会津さんの役目。同じ理念を持つ人を増やしていけるよう、目指している。



日頃から街頭演説を行い、政策提言や活動報告を市民に伝えている会津さん。この日は、インターンの大学生2名が夜までお手伝い。



生活困窮者が少しでも明るい気持ちで年末を過ごすようにと、地域のボランティアと一緒に炊き出しを実施。

役に立てる人間になりたいと思いました」

その後、児童養護の経験を積みながら、保育士資格を取得し、青年海外協力隊に参加。エジプトに派遣され、児童養護施設でストリートチルドレンたちへの情操教育を行った。最初の半年間は、文化や宗教の違いによる価値観の相違で現地スタッフと意思疎通がうまく回れず、空回りの日々だった。しかし、活動が広がると理解者も増え、子どもたちにお芝居を教えたり、一緒に工作ができるようになったりした。「自分の力だけでその場のリズムを変えようとするのではなく、理解のある人やサポートしてくれるスタッフと一緒に進めることが大事だと学びました」

### 政治家として 日本の課題にチャレンジ

2年間の活動を終え、日本への帰国に胸を躍らせていた会津さんだったが、自宅周辺の美しい里山が住宅地に変わっていたのを見てショックを受けた。人口もそれほど増えておらず空き家もあるのに、なぜこんなに自然を壊してしま

うのか。電車に乗ればお年寄りに席を譲らない若者を見かけ、ニュースは子どももの自殺が増えたと伝えている。経済成長の裏で、多くの大切なものが失われていると感じた。

「外から日本を見たことで、今まで見えなかった社会問題に目が向くようになりました。もともと政治に興味があったわけではありませんでしたが、区議会議員をやっている友人から地方選挙の研修会に誘われ、そこで稲妻に打たれてしまったんです」文句を言っているだけではだめだ、自ら参加して政治を変えようと一念発起し、市議会議員に立候補した。

議員の仕事は、足を使って課題を見つけ、地域の人たちと一緒に取り組み、解決策を考えるという、協力隊の活動に似ている。海外での経験から自分の意見をはっきり言えるようになったことで「空気を読みがちな日本社会に風穴をあけられる存在になれるかもしれない」と会津さん。

入会する環境主義の政治団体は、経済成長優先主義からの脱却と未来への責任、信頼に基づく社会づくりを謳う。会津さんは、経済優先で環境問題は後

### 会津 素子さん プロフィール

千葉県出身。高校卒業後、役者として舞台やテレビに出演。インドでのボランティア活動を通じて人生観が変わり、福祉の道を志す。児童養護施設での勤務を経て、2007年から青年海外協力隊に参加。青少年活動隊員としてエジプトの児童養護施設で活動。帰国後、介護施設での勤務を経て、2011年に成田市議会議員に初当選。経済環境委員会に入会し、次世代の子どもたちが幸せに暮らせる市政を目指している。

回しの日本の政策に疑問を投げかける。「議会の中で会員は私一人のためエネルギーは必要ですが、議会の外には仲間がいて、勉強会をしながら市に提言書を出すなどしています。もちろん議会は多数決の世界なので、同じ理念をもつ人が増えてほしいと思っています」

会津さんは3ヶ月毎の議会が終わると、報告を兼ねた活動レポートを作り、駅での配布や各戸へのポスティングを欠かさず行い、市民の手元に届けている。

次の目標は、「ゼロカーボンシティ」※を宣言した成田市の具体的な取り組みを考えていくことだ。「普通の人たち」に寄り添う市民派議員のチャレンジはこれからも続く。

### 会津さんへの エール!

はしらデリ&カフェ、  
ハシラロール オーナー  
藪 依里子さん



### 周りに希望を与えてくれる存在

素子さんは政治家っぽくない政治家ですね。特別な野望があるわけでもなく、シンプルに「それって当たり前じゃない?」というスタンス。これこそ本物の政治家の在り方だと感じます。今の政治は空気を読んだり、「そうあるべき」に縛られたりする人が多く、素子さんのようなシンプルな市民派議員はマイノリティ。議会ではきっと大変な思いをされているはずですが、それでも議員を続けているのは本当にすごいと思うし、みんなにとっての希望です。

※2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする都市づくりを目指す自治体。